

NARO RESEARCH PRIZE 2020

海外需要が拡大する抹茶・粉末茶に適した品種「せいめい」

吉田克志¹⁾、根角厚司²⁾、荻野暁子²⁾

(¹果樹茶業研究部門 研究推進部、²果樹茶業研究部門 茶業研究領域)

研究の目的・背景等

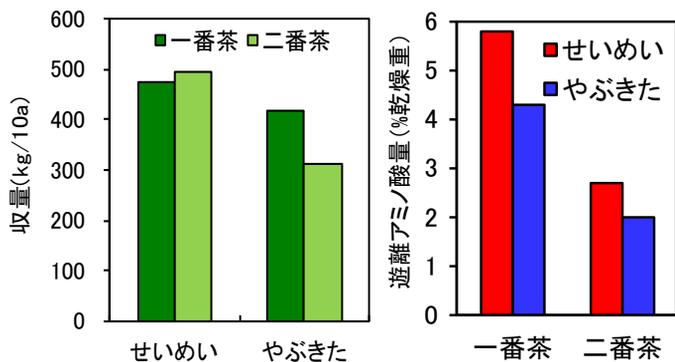
最近10年で、抹茶の生産量は約2倍に増えており、今後も国内外における需要の増加が見込まれている。一方で、茶園面積の約72%で栽培される主要品種「やぶきた」は、多くの産地において高樹齢化が進み、抹茶・粉末茶の需要増への対応が困難である。そのため「やぶきた」よりも被覆栽培下で収量が多く、粉末の色合いに優れ、栽培適地が広い抹茶・粉末茶用品種「せいめい」を育成した。

研究の概要

高品質な抹茶や粉末茶の原料には、収穫前に2週間以上茶樹を覆う「被覆栽培」を行った新芽が用いられる。しかし、被覆栽培は樹勢を弱らせ、収量は低下するため、樹勢が強く、被覆栽培でも収量が確保できる高品質な品種「せいめい」を育成した。本品種は、耐寒性が強く、茶の重要病害である炭疽病や輪斑病に抵抗性であることから、栽培適地が広く、関東以南での普及が可能である。さらに、葉厚が薄く色合いと旨味に優れることから、高品質な抹茶や粉末茶、かぶせ茶が製造でき、需要が急増している抹茶や粉末茶用の高品質茶の生産を拡大することで、日本産緑茶のブランド力強化と需要拡大に貢献できる。



被覆栽培の「せいめい」一番茶園相



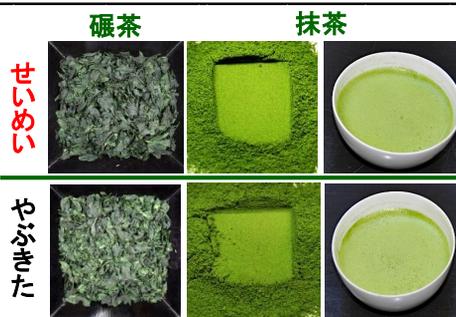
被覆栽培で「やぶきた」より多収

被覆栽培時のアミノ酸量が「やぶきた」より多い

うま味に優れる

耐寒性は「やぶきた」並で病害に強い

品種名	耐寒性		病害抵抗性			
	赤枯抵抗性	裂傷型凍害抵抗性	炭疽病	輪斑病	赤焼病	もち病
せいめい	中	やや強	中	強	中	やや強
やぶきた	やや強	中	弱	弱	中	やや弱



「せいめい」碾茶と抹茶の色合いは「やぶきた」より優れる



吉田克志



根角厚司



荻野暁子